

シニア猫の健康診断での検査:

健康診断のベーシック検査に加えて、中高齢期の病気リスクに合わせた追加検査で、より詳細な情報を得ることが大切です。

ベーシック検査:

年齢にかかわらず実施



血液化学検査: 臓器・器官系の状態を調べる血液検査。

猫は腎臓病の検査項目であるIDEXX SDMAを含む16項目が世界の猫用健康診断のスタンダードとされています。

完全血球計算: 赤血球や白血球の数を調べ、貧血や炎症、感染症の有無などを調べる検査。その他にも尿検査、糞便検査などを一般的に組み合わせます。

追加検査:

シニア猫や症状のある子に



心臓病や内分泌疾患など、特定の疾患を調べる検査項目を追加することで病気の発症を早期に発見することができます。詳しくは中面をご覧ください。

7歳からの健康診断

元気に見えても中高齢期。
大切な検査をご存じですか？

異常や変化のサインを早期に見つけるために

7歳からは1年に2回の
健康診断



長くすこやかに一緒に過ごすために 元気なときから、動物病院で定期的な健康診断を!

動物病院の検査情報サイト

CareMyPet



www.idexxjp.com/cmp



IDEXX

アイデックス ラボラトリーズは、動物臨床検査の世界的なリーディングカンパニーです。 www.idexx.co.jp

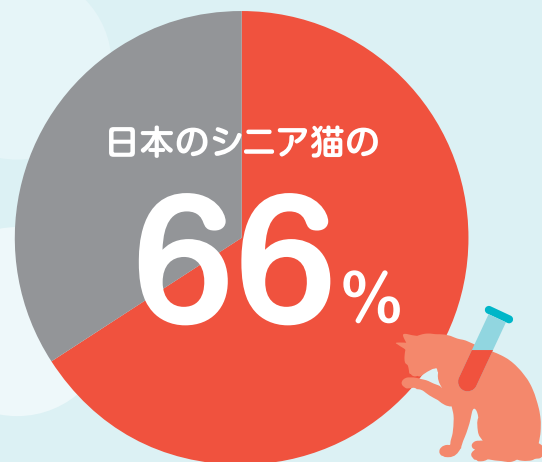
ケアマイペットは、動物臨床検査の世界的なリーディングカンパニーIDEXXがご提供します。

まだまだ若い。 そう見えていませんか？

ねこちゃんは7歳頃から中高齢期に入り、人間と同様に、腎臓病、心臓病、内分泌疾患、腫瘍など様々な病気のリスクが上昇します。

健康診断の血液化学ベーシック検査

参考基準範囲外が1項目以上検出された
7歳以上のシニア猫の割合



データ：全国 動物病院

腎臓のバイオマーカー IDEXX SDMAを含む血液化学ベーシック検査

* アイデックス検査サービスが2020年2月～6月の期間に全国の動物病院から受託した健康診断の血液化学検査結果

外から見えない異常の兆しを早め に発見して、 健康寿命を延ばしてあげましょう。



腎臓病

猫では一生のうち3頭に1頭が腎臓病になると考えられており、中齢以上の猫に代表的な疾患です。日本全国の動物病院における健康診断でも中高齢猫の31%*1が腎臓病疑いとして検出されています。

*1. 8歳以上の猫39,511頭を母数とする

IDEXX SDMA検査

健康診断のベーシック検査項目の一つで、国際的な慢性腎臓病ガイドラインが採用している検査。血清クレアチニン検査と比べて猫で**平均17ヵ月早く慢性腎臓病を検出**できたという報告があります。



心臓病

一般的に猫の心臓病の発症は5歳ぐらいから緩やかに増加します。猫の心臓病は犬に比べ気づきにくいので、症状がなくても定期的なチェックが重要です。

Cardiopet proBNP 検査

心筋に負担がかかると分泌されるホルモンを測定する血液検査。数値で心臓の状態把握をサポートし、画像検査の必要性を判断する目安となります。この検査を受けた犬・猫の約45%*2が、精査の対象となる高値を示したという日本の健診データもあります。

*2. アイデックス検査サービス 2020年春健診データ



甲状腺機能亢進症

特に中年以降の猫にみられる内分泌疾患。甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることで発症します。体重減少、食欲増加、活動亢進、毛並みが悪くなるなど、様々な症状を示します。病気と分かりづらいことも多いため、早めの検査が大切です。

T4検査

甲状腺ホルモンの分泌量が正常かどうかを調べる血液検査。甲状腺機能亢進症の確定診断に主に用いられます。

獣医師は検査結果やその他の所見に基づき総合的に判断します。診断や治療については先生にお尋ねください。